

国立大学法人岩手大学

岩手大学

（審査・評価委員の所見）

- ・畜産分野における研究開発と産業化の拠点を自治体、他大学との連携、など多くのステークホルダーを交えて活動し始めていることを評価したい。
- ・北東北を中心としたイノベーション推進リサーチパークの構想を着実に進めていただきたい。
- ・自治体や地域支援機関と連携して進める「イノベーション推進リサーチパーク」は、地域産業における産学官連携の中核拠点としての役割を果たすことが期待される。
- ・県と連携した事業により「i-SB 法」の研究シーズが地域産業に波及しつつあり、実用化に向けた技術移転による地域産業の技術力向上が期待される。
- ・学長主宰の「成長戦略会議」によってガバナンスが強化され、効果的な研究支援体制とマネジメントが整いつつある点を評価したい。
- ・共同研究金額、一件当たりの金額増加が進められている。
- ・イノベーションリサーチパークの整備も当初計画通り進めていることについて評価する。
- ・当初予定された強化事業の進捗は概ね順調と思料。
- ・特に「組織横断産学連携支援システム」では、地域企業との共同研究に成果を上げつつある。一方で、「イノベーション推進リサーチパーク」の進捗は一層のスピードアップを求めたい。
- ・畜産分野における研究開発・産業拠点育成に向けて様々な角度からの活動を活発に進めている。令和7年度は資金投入の効果が見込まれており、引き続き活動を進めてもらいたい。

国立大学法人秋田大学

秋田大学

(審査・評価委員の所見)

- ・電動化評価ラボの機能強化の目的は順調に進んでいる。研究環境も URA 組織の駆動が始まっており、研究力の改善も進んでいると思われる。
- ・秋田リカレント教育プラットフォームにおいて、地域企業・行政機関のコミットメントをどこまで進めるかが重要。スタートアップ支援に関して、一般的なディープテック型、インパクト型、中小零細モデルなのか、ガゼル型なのか、整理した上で支援体制を整える必要がある。
- ・研究シーズの掲載件数や特許出願の伸びが顕著で、これらを活用した産学官連携研究開発プロジェクトへの進展が期待できる。
- ・DX や GX などの成長分野に対応した「秋田リカレント教育プラットフォーム」を整備し、システムの利便性を高めることで、地域産業界の人材育成に貢献している点が評価できる。
- ・強みの一つである電動化評価ラボの機能強化、共同機器利用などを予定通り進めている。TOP10%論文や国際共著は増加している点も評価する。
- ・一方、共同研究等の外部資金は伸びていない。設立したスタートアップ企業によるマネジメント強化を期待する。
- ・TOP10%論文数の増加等に見られる研究力の向上には相応の成果が出つつある。
- ・AREP についても初年度から多数の機関の参加を得て活動の活性化が期待される。
- ・外部資金獲得実績の向上を期待したい。
- ・国際共同研究を積極的に行うなどにより、Top10%論文の増加をはじめ特許出願増加、大学発ベンチャーの創出などに繋がった。

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

沖縄科学技術大学院大学

（審査・評価委員の所見）

- ・事業の来年度以降の継続的な資金調達が不透明である。
- ・これまで各省で実施されてきたモビリティ検証のプロジェクトに比して大きな違いがみられない。
- ・研究開発要素はあるものの社会実装のシナリオがまだ不透明。
- ・企業や自治体との合意内容及び共同開発に当たっての負担割合が不明確で、今後の事業執行に不安が残る。
- ・国際標準を沖縄の環境条件に合わせたシステムであるため、沖縄以外では活用しにくく、汎用性や拡張性に欠ける可能性がある。
- ・地域の特性もあろうが、契約に時間がかかったことは大変残念である。申請の段階でもう少し事前の準備が欲しかった。
- ・重要な事業であり、今後は資金を調達して事業の継続・発展を図ってほしい。

国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学

（審査・評価委員の所見）

- ・雇用促進の事業との連携は自治体側の対応に少し不安を持っているが事業としては素晴らしい。
- ・進捗について非常に期待できる。今後の人材トランジションで議論されている農林畜産業におけるアドバンストエッセンシャルワーカー像を示していただきたい。
- ・実証農場は産学官の共同研究の場として効果的に活用されている。
- ・実証農場の活用（センター設置、ARA 設立）により成果があがっており、次世代人材育成とともに期待したい。
- ・3 大学連携や大学院教育及び研究力強化に向け着実に前進している。
- ・プラットフォームの参加企業数も着実に増加しており、産学連携の拡大に期待している。
- ・URA、ARA の強化や外国人博士人材の雇用など人材力強化にも着実な取り組みがみられる。
- ・海外との連携は大きな魅力である。AI を積極的に取り入れつつ、今後も継続して海外連携を進めていただきたい。

国立大学法人金沢大学

金沢大学

(審査・評価委員の所見)

- ・北陸地域の連携サテライトオフィスの独自性とその統括の手法は極めて興味深い。北陸地域のハブ大学としての役割を年々強化しつつある。
- ・人文社会科学を中心にしたライフサイエンス等、融合した観光科学と連携した各拠点事業について取り組みが進みつつあるので引き続き復興支援含め取り組みを推進していただきたい。
- ・震災のダメージから復興するために、文理医融合による、観光起点の地域産業振興プロジェクトを推進されている点を評価したい。
- ・成果の見える化が難しい分野であり、その点を留意してほしい。
- ・文理医融合による卓越研究領域の拡大やスタートアップの創出についての進捗がやや遅れ気味である。
- ・医学・保健学と観光科学の連携は新しい取り組みである。企業との連携が進んでいるとのことで、継続して発展することを期待する。

国立大学法人鳥取大学

鳥取大学

(審査・評価委員の所見)

- ・砂丘農業の実証が進んでいることを評価したい。地域経済への関与も進みつつあると理解している。
- ・スマート農業の取り組みを進めていくにあたり、今後の政府のアドバンストエッセンシャルサービス化の流れもとらえた活動をしていただきたい。
- ・URA を中心とした産学官連携の推進は、連携プロジェクトの創出に確かな成果を挙げている。
- ・今後はこうした取り組みをさらに発展させ、県や産業支援機関と連携して、地域産業界の事業化を積極的に支援していくことが望まれる。
- ・農林水産業の振興は県の主要課題だと思うが、鳥取県の農業生産規模（727億円／R5）には限界があるため、外部資金獲得のためには、農産物に関連する他産業を組み合わせた、幅広いプロジェクト創出に取り組むことが必要だと考える。
- ・計画通り、地域イノベーションコモンズ整備や砂丘実証フィールド整備などを進めている。
- ・URA の採用など研究インフラの整備は進捗している。
- ・共同研究・受託研究件数も着実に増加して、地域貢献の取り組みも強化されている。
- ・イノベーションコモンズの一層の強化を期待したい。

国立大学法人岡山大学

岡山大学

(審査・評価委員の所見)

- ・新しい国立大学のハブ機能の方向性の萌芽を感じる。
- ・大学独自のクラウドファンディングの試みは注目している。
- ・計画含め岡山・中国四国のシンク・アクションタンク機能を強化いただきたい。
- ・活動内容は理解でき、地域活性化に寄与するものと認められる。
- ・テックガレージ、リカレントプラットフォームを本事業で進めており、J-PEAKS との連携もきちんとなされている。学生の能力向上、社会への貢献につながる活動であり、期待したい。
- ・社会実装・イノベーション、地域貢献、外部資金の獲得などの各方面で有為な実績を積み上げている。
- ・J-PEAKS との相乗効果にも意を用いており、本事業と J-PEAKS との融合の一つのモデルケースとも言える。
- ・様々な形での連携が本事業の特徴の一つである。宮崎大学との連携など、課題を共有する大学との連携は興味深く、今後の発展を期待したい。

国立大学法人新潟大学

新潟大学

(審査・評価委員の所見)

- ・独自の UA 事務局制度を展開し、成功している。多方面のステークホルダーとの関係で展開している食と医療のビジネスモデルの展開も興味深い。
- ・大型案件獲得につながる取り組みも進んでおり評価できる。
- ・UA 制度を活用した産学官共同研究や外部資金獲得の実績は顕著であり、UA 制度の有効性が具体的に示されている。
- ・UA を大学経営に関与する高度専門人材として位置付け、事務職も含めた「副理事制度」を創設するなど、組織的なマネジメント強化が進められている。
- ・外部資金の獲得額も伸びを見せていることから、今後の UA 制度定着と発展によって、地域産業との連携深化に資することが期待される。
- ・J-PEAKS の採択に伴い、本事業では地方創成に資するプロジェクト(共創 IP)の事業化に集中しており、事業目的が明確である。
- ・共創 IP では既に地方地域創成交付金事業、長期受託等の実績を挙げている。医療分野や、スタートアップ領域でも新しい共創 IP を検討しており、本事業により取組強化を期待する。また提案された UA 人事制度や事務高度化改革は成功すれば他大学にも役立つ活動であるので、今後その成果・進捗も明らかにしていただきたい。
- ・研究力強化と地域経済活性化がうまく融合し始めており、本事業の目的に合った成果を上げつつある。
- ・外部資金獲得も順調に伸びており、他の資金交付プロジェクトでの採択にもつながるなど、相応の成果を出しつつある。
- ・J-PEAKS に採用されるなど、他事業との連携が加速した。独自の活動を発展させており、民間企業との共同研究費が伸びるなどの成果が得られている。